

まちの話題



東京2020パラリンピック鹿角市採火式

8月12日に、大湯ストーションサークル館の縄文広場で「東京2020パラリンピック鹿角市採火式」縄文の日を東京へ届けよう」が行われました。

採火式では、比内支援学校かづの校高等部の生徒が、まきぎり式火おこし器を使用し、縄文時代に行われていたとされる火おこしを再現しました。おこされた火は、同校中学部の生徒が制作した縄文式土器に移され、「縄文の火」として燃え上がると、会場の広場では大きな拍手が起きました。「縄文の火」は、鹿角市身体障がい者協会の松岡隆司会長の手により、縄文式土器からランタンへと移されました。

ランタンへと移された「縄文の火」は、8月16日に秋田市に届けられ、県内の他の市町村で採火された火と一つのランタンに集められた後、県障害者スポーツ協会の佐々木会長の聖火トーチに火が移されました。



サマージャンプスキースクール

7月30日に花輪スキー場で、サマージャンプスキースクールが開催されました。コンバインド競技でオリンピックやワールドカップに出場した、高橋大斗氏や小林範仁氏、渡部暁斗氏が講師に招かれ、参加した児童・生徒にスキージャンプの技術などを指導しました。現在も現役で競技を続けている渡部氏から、指導を受けた高校生らは「普段の練習では教えてもらえないようなことを聞くことができた」と貴重な機会に目を輝かせていました。



親子絵画教室

8月1日に先人顕彰館で、画家・熊谷晃太氏を講師に招いた親子絵画教室が開催されました。参加者は、はじめに先人顕彰館の周辺に生えている木々を観察し、木の色や形を確認した後、館内に移動し、講師から木の描き方を教わりました。熊谷氏は「木の色は一色ではない。赤や青、黄色、紫などさまざまな色を使って、木を表現してみしてほしい」と話され、描き方を聞いた子どもたちはクレヨンで思い思いの木々を表現しました。



かづの未来アカデミー

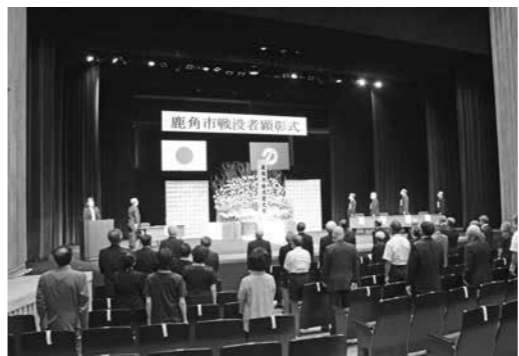
7月30日と8月3日に文化の杜交流館コモッセで、市内の中学生と高校生が武蔵野大学の学生や教授とともに、地域の活性化を研究するプログラム「かづの未来アカデミー」が開催されました。アカデミーには、本市の高校生5人と武蔵野大学の学生11人、地域活性化を専門とする教授が参加し、それぞれが思い描く鹿角市の30年後について、活発な意見交換を行いました。参加した生徒は「大学生とともに学ぶことで新たな気づきや考えの広げ方を学ぶことができた」「大学への興味が沸いた」「地域についてもっと考えていきたい」と感想を述べていました。



戦没者顕彰式

8月10日に、文化の杜交流館コモッセで、令和3年度鹿角市戦没者顕彰式が規模を縮小して行われ、戦争で亡くなられた方の遺族らが参列し、平和への祈りを捧げました。式では、戦争で亡くなられた方々の尊い命を悼み、関市長をはじめ各団体の代表者から献花が行われました。

関市長は「戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、次の世代に継承していかなければならない。恒久平和の想いを新たに、努力を重ねていく」と述べ、参加者とともに世界の平和を強く願いました。



大湯大太鼓の供養太鼓

8月15日に大圓寺で、秋田県無形民俗文化財に指定されている、大湯大太鼓の供養太鼓が行われました。大圓寺の前にずらりと並んだ大湯大太鼓は圧巻で、打手は、その長いバチを体ごと大きく振り上げて力強く叩き、大太鼓の勇壮な音が大湯中に鳴り響かせました。集まった人々は、その堂々たる音と打ち手の華麗なバチさばきに魅了され、大きな拍手をおくっていました。



百歳長寿を祝う 切田ツエさん

切田ツエさん（大正10年・花輪生まれ）が8月14日に満100歳の誕生日を迎えたことから、市から顕彰状と祝い金が贈られました。

切田さんは、平成29年から施設に入所していますが、自宅で過ごしていた頃の畑仕事のことや地域のことなどを聞かせてくれるそうです。素敵な笑顔で優しく穏やかに話しますが、気丈な一面もあり100歳とは思えない若さをもっている方だそうです。

施設職員は「よく食べて、よく寝て、お話し好きで、愛らしい笑顔が長寿の秘訣だと思ふ」と話していました。

